

記録、記帳して経営に活かそう 《その1》

～経営改善に向けた2つの記帳と+α(プラスアルファ)～



確定申告で書類を作成しているのに分析をしたことはないって……。それって本当にもったいない話です。一度我が家の経営を見直し、さらに来年度の目標設定のために活用してみてはいかがでしょうか。比較的農作業の少ないこの時期に早めに決算を済ませて、昨年の決算書と見比べることをお勧めします。そこで今月号は、まず経営記帳についておさらいをしましょう。

1 2つの経営記帳

経営の見直しを図るうえでその基礎となるのが経営記帳です。この経営記帳には大きく分けて2種類あります。一つは、動植物の生産状況を記録した**管理(生産)記帳**。もう一つは、金銭面を記録した**簿記記帳**です。この2つがそろって、詳しい経営改善の計画を進めることが出来ます。

(1) 管理記帳とは

- ①記録の目的
販売金額の増減した原因究明と技術継承などのため
- ②記録の内容
技術的な改善方向を明確にするためには、**管理(生産)記帳**が必要です。記帳する内容は、気温や晴れ雨などの気象状況と母牛の繁殖や分娩状況や病気、治療履歴、子牛の成育や体型(特徴)、飼料作物の生育状況や肥培管理、作業の時期など、我が家の経営にあった記帳を行って下さい。管理記録は将来への財産なので継続性がポイントです。そのためには、最初から記録項目を細かくしないことです。

単式簿記			複式簿記			
◎売上帳			日付	借方	貸方	金額
1月15日	子牛売上	1,000,000	1月15日	普通預金	子牛売上	1,000,000
1月30日	導入補助金	50,000	1月15日	出荷手数料	普通預金	63,000
◎経費帳			1月30日	普通預金	導入補助金	50,000
1月15日	出荷手数料	63,000	1月30日	飼料費	普通預金	200,000
1月30日	飼料費	200,000	2月1日	肥料費	現金	100,000
2月1日	肥料費	100,000				

図 単式簿記(左)と複式簿記(右)の記帳の違い

(2) 簿記記帳とは

- ①記帳の目的
金銭の動きから経営状況を把握(判断)などするため
- ②記帳の内容
経営規模が大きくなると、お金のやりとりが複雑になり、記帳しない記憶による経営、いわゆる「どんぶり勘定」では、資金調達が難しくなるのは勿論、経営内容が把握しにくくなってきます。例えば、簿記記帳を行わない場合、(イ) お金の貸し借りを全て記憶しておかなければならないとか(ロ) 将来の投資に備えた金額 (例えば引当金や準備金) がどれだけあるのか記憶しておかなければならなくなります。また、(ハ) 過去の資産を食いつぶしていないかどうかの判断が難しい。等の問題が生じます。こういったことを勘や記憶だけでなく、数字でつかもうとするのが簿記記帳による経営なのです。
次に、簿記記帳の方法には大きくわけて2種類あります。一つは、現金出納帳のような**単式簿記(上図)**。もう一つは、**複式簿記(上図)**と呼ばれるものです。単式簿記では、大規模経営体の経営状況を把握するのは難しいと考えますので複式簿記にチャレンジすることをお勧めします。さらに**複式簿記**をするのであれば、**損益決算書**だけではなく資金調達方法がわかる**貸借対照表**まで作成しましょう (興味のある方は普及センターまでお尋ねください)。

【損益決算書とは】
一定期間に発生した収益と費用を記載して利益を表示したもの

【貸借対照表とは】
財政状況表とも呼ばれ、会計期間の期末時点での資金残高が項目別に記載されたもの

2 さらにもう一つ、+αの記帳

「働かざる者、食うべからず」という言葉があります。「働く＝食べるため」ともとらえられます。例えば、同じ経営規模で**所得金額**がA経営体は300万円、B経営体は500万円の経営体を比較した場合、B経営体(500万円)の経営が良いです(色々な要因を加味していません)。しかし生活面から比較すると、A経営体は生活費が200万円必要で、B経営体は600万円となるとB経営体は、一見所得は多いですが生活は回っておらず、さらに所得が必要になります。従って個人経営の方は、**家計簿**をつけて生活費から経営目標を設定するのが最低限必要なことだと思います
次回は、記帳および記録したデータを基にした分析方法を紹介します。

★ 3つの記録・記帳
①管理(生産記帳)：生産物(牛と飼料など)の成(生)育状況と管理工程 ②簿記記帳：損益計算書と貸借対照表の整備 ③家計簿：最低確保しないといけない資金